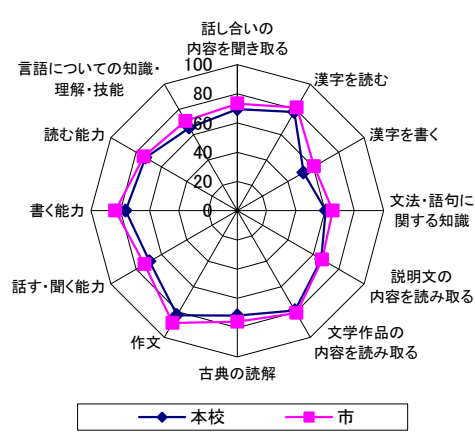


宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	69.4	73.3
	漢字を読む	77.8	81.5
	漢字を書く	52.2	60.6
	文法・語句に関する知識	60.5	65.2
	説明文の内容を読み取る	66.3	66.9
	文学作品の内容を読み取る	78.8	80.9
	古典の読解	71.8	76.0
	作文	82.5	88.6
観点別	話す・聞く能力	69.4	73.3
	書く能力	76.5	83.4
	読む能力	72.6	73.9
	言語についての知識・理解・技能	65.5	70.9



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	本校の正答率は、市の平均正答率よりも3.9ポイント下回っている。聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることはできるが、話し手の意見に対して自分の考えを持ち、質問をするなど、発展的な内容に課題が残る。	・聞き取りテストを今後も継続させ、話の内容を的確に聞き取る練習をしていく。 ・授業以外でも、日常生活の話題について発言、発表の機会を意図的に設け、実践力をつけていく。
漢字	本校の正答率は、市の平均正答率よりも「読み」で3.7ポイント、「書き」で8.4ポイント下回っている。「読み」と「書き」を比較すると、「書き」が25.6ポイント下回っている。特に、小学校既習の漢字である「勤務」「看板」など熟語の書き取りにつまづきがある。	・学年配当の漢字を継続的に学習するプリントを作成し、定期的に確認テストを実施し定着を図る。
文法・語句に関する知識	本校の正答率は、市の平均正答率よりも4.7ポイント下回っている。多義語についての理解はなされているが、用言の活用、敬語についての理解は十分とは言えない。	・文法を学ぶことで、正しい文章を書いたり話したりすることができることを理解させ、復習の時間を十分取りながらより多くの問題に取り組ませる。 ・相手意識を持った言葉遣いが日常生活でできるようにする。
説明文の内容を読み取る	本校の正答率は、市の平均正答率よりも0.6ポイント下回っている。展開に即して、構成や内容をとらえることができるが、文章の内容を具体的な事例にあてはめるなど発展的な内容を苦手とする生徒が多い。	・内容を正確に理解するために、指示語の内容を具体的に読んで、接続語のはたらきに注意して段落相互の関係を的確につかんだりする力をつけさせる。 ・言葉のまとまりや全体の構成を意識させるため、様々な形の音読を積極的に取り入れる。
文学作品の内容を読み取る	本校の正答率は、市の正答率よりも2.1ポイント下回っているが、登場人物の心情や心情変化をとらえることは比較的できている。	・朝の読書の時間ではほとんどの生徒が熱心に本を読んでいるが、文学作品を読んでいる生徒は多くない。授業などを通して、より質の高い文学作品に触れさせ、登場人物の行動や会話、仕草から、心情の変化を的確に読み取る力をつけさせる。
古典の読解	本校の正答率は、市の正答率よりも4.2ポイント下回っている。古典に苦手意識があり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことにつまづきを感じている生徒もいる。	・暗唱を楽しみ、時代背景をふまえながら作品を読み味わうことができていた。興味関心を高めつつ、歴史的仮名遣いや重要古語、主語を補いながら読むスキルを身につけさせる。
作文	本校の正答率は、市の正答率よりも6.1ポイント下回っている。目的や意図に応じて、根拠を示しながら自分の考えを書くことができるようになってきた。ただし、条件作文そのものに根強い苦手意識をもっている生徒がかなり多い。	・自分の考えを明確にして、意見や感想を簡潔にまとめる練習を多く取り入れ、「書くこと」そのものへの苦手意識を取り除いていく。 ・原稿用紙の使い方を改めて確認し、示された型どおりに書く練習をしていく。